



季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

〜第一一六号〜

寒露 かんろう

十月九日



# 宇治大神輿

神嘗祭かんなめさいのある伊勢の一〇月は、お祭りの月。

内宮前の宇治地区でも、一六日に五十鈴川で初穂をのせたソリを曳く初穂曳はつほひき、翌一七日はおはらい町を練り歩く宇治大神輿おみこしが行われます。

宇治大神輿は、猿田彦神社から宇治おまつり青年団に借し出されます。神輿はふだん神社の参拝休憩所に保管されているので、誰でも百貫神輿といわれる大きな神輿を拝見することができます。屋根に千木ちぎをいただき、鯉木かろぎがのる姿は、神宮の建築様式、唯一神明造りにちなむもの、千木の先端の削ぎ方は、内宮と同じく地面と平行の内削うちそぎです。

宇治大神輿の特徴は、伊勢中から担ぎ手が集まってくることに。ハッピを見ると、からし色の宇治おまつり青年団のほかに、紺色やオレンジ色など色とりどりで各団の担ぎ手であるのがよくわかります。というのも、重い百貫神輿を担ぐには、交代要員も含めると一〇〇人が必要といえます。それだけの人員を平日の昼間にもかかわらず宇治から集めるのは難しく、伊勢の人たちに広く呼びかけるようになり、今では会社を休んでも参加してくれるようになったといえます。

大神輿は、猿田彦神社をスタートし、おはらい町通りを練り、宇治橋前で二拝二拍手一拝をして再び猿田彦神社に戻ってくるコースをとります。途中で、日本酒のふるまいなどもあって、たっぷりと時間をかけて練り歩きます。今夏には、大神輿を貸してくれるにあたって許可してくれた猿田彦神社の宇治土公貞幹名譽宮司が亡くなったこともあり、感謝と鎮魂を込めて担がれることでしょう。

文 千種清美

